



JACET通信

社団法人大学英語教育学会

July 2012

The Japan Association of College English Teachers

No.184

目次

巻頭言 (神保 尚武)	1頁	社員総会報告 (寺内 一)	8頁
他学会からの寄稿 (日本独文学会ドイツ語教育部会)	2頁	平成24年度事業計画	10頁
特色ある大学英語教育プログラム (北星学園大学短期大学部)	4頁	平成24年度収支予算書 支部だより	14頁 16頁
本部だより (河野 円)	6頁	『JACET通信』記事の募集	24頁

[巻頭言]

創立50周年を迎え、JACETのさらなる前進を目指そう

社団法人大学英語教育学会会長 神保 尚武
早稲田大学

2012年度の初めにあたり、会員の皆様にご挨拶申し上げます。会長として2期目に入りました。副会長の寺内一先生には引き続きその職務を続けていただき、総務担当理事を兼務していただくこととなりました。副会長の岡田伸夫先生が退任し、後任に山内ひさ子先生を起用いたしました。先生には国際交流担当理事の兼務もお願い致しました。理事の多くが新任、監事2名も新任ですので、理事会が大きく刷新されました。

本年で創立50周年を迎えます。創立50周年を祝う事業が完成いたしました。

1. 創立50周年寄付事業について

社団法人大学英語教育学会の創立50周年寄付事業にご協力を賜りましてありがとうございます。

た。会員の皆様の格別なご厚意を賜りまして、目標額の400万円をはるかに超え、4,555,000円の寄付金を集めることができました。会長としてあらためて御礼を申し上げる次第です。このご寄付は事業計画通り、「英語教育学大系」13巻の刊行、第50回記念国際大会の開催の費用に使用し、さらに50周年記念誌の作成のために使わせていただきました。

2. 「英語教育学大系」13巻刊行について

全13巻が昨年の7月に完成いたしました。50回記念国際大会で披露することができ、大きな喜びでした。執筆者をはじめ、関係された方々と発行元の大修館書店に感謝申し上げます。なお、『英語教育2011年9月号』でこのプロジェクトが特集されました。日本の英語教育学の基礎が築かれ

たと自負しております。

3. 第50回記念国際大会について

第50回記念国際大会は、九州・沖縄支部の実行委員会を中心にした組織委員会の指揮のもと、成功裏に終了いたしました。テーマは「高等英語教育への挑戦—JACETのこれからの50年—」でした。1000名をこえる参加者があり、1999年の国際応用言語学会(AILA '99 Tokyo)以来の大規模な大会となりました。大会の記録としてThe JACET International Convention ProceedingsをCDにまとめました。なお、これを機会に今後の大会をすべて国際大会とすることといたしました。

4. 50周年記念誌の作成について

50周年記念誌が完成いたしました。多くの方々からメッセージが寄せられました。感謝いたします。これまでの諸活動を振り返り、これからの50年のJACETについて展望する内容となっております。

本年度の活動も開始されました。第51回国際大会、各支部大会、紀要や通信の発行、夏季セミナーと春季セミナーの開催、各研究会の活動等が展開されております。詳細はホームページをご覧ください。

なお、今年度中には、JACETの「一般社団」化の申請手続きを完了する予定です。2013年4月に新体制で出発できることを期待しております。さらなるJACETの発展を目指し、会員諸氏と手を携えていきたいと思っております。

～他学会からの寄稿～

日本独文学会 ドイツ語教育部会

前部会長 三瓶 慎一
(慶應義塾大学)

日本独文学会ドイツ語教育部会は、日本独文学会の下部組織として1970年に設立されました。機関誌『ドイツ語教育』の年1回の刊行、日本独文学会研究発表会でのシンポジウムや招待講演の開催をはじめ、大学入試センター試験の「ドイツ語」問題についての「教育研究団体の意見・評価」の作成と提出、その他各種の調査研究活動を行っています。特にこれまでのシンポジウムや招待講演の際には、JACET会員の先生方のご協力を頂くことも多く、貴重なお話を伺うとともに、学会間の有意義な情報交換の機会となっており、大変感謝しております。

現在のドイツ語教育部会の活動の目的は、日本におけるドイツ語教育の質の向上です。しかし1968年に国際ドイツ語教員連盟(IDV)が設立されて、団体としてこれに加盟する必要性が生じたことも、本会の設立が求められた背景です。一方で、それまでドイツ文学の研究が中心であった日本独文学会の活動の中で、ドイツ語学の研究者の発表の場を増やしたいという要請があったためでもありました。まだ教育現場の問題を中心に据えることが稀な時代であったと言えます。

これに対し、1990年代になると、文学・語学に加えてドイツ語教授法(ドイツ語教育研究)の分野が、学会活動の第3の柱として成長してきました。ドイツ語教育部会も、それに連動して、ドイツ語教育研究を活動の中心の1つとして位置づけるようになりました。機関誌について言えば、それまで年2回発行していたB6判型の『ドイツ語教育部会 会報』を発展的に解消し、1996年からはページ数を増やしたうえでA5判型の『ドイツ語教育』として、年1回の刊行とすることで、そうした研究発表の場としての役割を果たしてきました。



さて、ここ2年ほどは、本会のこれまでの歩みを踏まえ、将来のあり方について問題提起と議論を行うために、「ドイツ語教育部会はだれ(のため)のものか?」という表題の連続企画を開催してきました。この間、ドイツ文学やドイツ語学の研究者から、ドイツ語教育部会の会員であることの意義が薄れてきた、ドイツ語教育研究の論文が多数を占める機関誌に投稿しづらくなった、機関誌に読みたい記事がない、等々の否定的な声が聞こえるようになってきたためです。これは、以前とは状況が変わり、ドイツ語教育研究の専門研究者が増えてきたことから、専門性が前面に出たことの裏返しの結果でした。

現在、日本独文学会の会員は2000名弱、ドイツ語教育部会の会員は650名程度ですが、そのほとんどは、ドイツ語教育研究の専門家ではなくとも自らの見識と専門の学識を基にドイツ語の教鞭を執っておられる人々です。ドイツ語教育の基盤としては、技術的な方法論の他に、そこに盛り込む内容も重要です。日本におけるドイツ語教育の改善に取り組むためには、さまざまな研究分野でドイツ語に関わる研究者が協働し、すべての会員の叢智を結集することが肝要です。文学・語学・教育の3分野が緊密に協力する態勢づくりこそが、ドイツ語教育部会の現在の最重要の課題ですが、他の外国語の学習・教育の現場でも、この点では似たような事情があるのではないのでしょうか。

ことに第2外国語教育が危機的な状況にある現在の日本の大学教育の枠組みの中では、教室内での授業研究のみならず、教育政策や言語政策に関わる巨視的な視座が不可欠です。そして、本会内部での会員の知の集積のみに頼るのではなく、

JACETをはじめとするドイツ語以外の外国語の教育に携わる方々のさまざまな知見に負うところも多いものです。さらに、外国語教育を提供する側ばかりか、その受益者側である学習者、人材を求める側の産業界などの意見の動向にも耳を傾ける必要があるでしょう。本会ではここ数年来、こうした観点でもシンポジウム等を開催して検討を重ねてきました。

日本の外国語教育の維持発展のためには、英語に加えて複数の言語の学習機会が増えることが望まれます。複数の言語の世界に足を踏み入れる機会が増えれば、それだけ文化の生態系の多様性を認識することになります。母語プラス2言語を、部分的にでもいいからある程度使えることを目指す「複言語主義」などの欧州評議会の言語政策、中でもいわゆるCEFR (Common European Framework of Reference for Languages: Learning, Teaching, Assessment) や言語ポートフォリオ等の理念と実践は大いに参考になるでしょう。しかし、その目的が最初から異なる外来の借りをそのままの形で利用することはできません。独自の理念や言語政策に基づいて、日本に適したあり方を模索する自前の努力が決定的に重要です。

最近では、ドイツ語も英語以外に存する多くの言語の1つ、という観点から学習・教育が行われることがあります。しかし他方でドイツ語という言葉は、ドイツ語圏地域が歩んできた歴史をにらみながらの日本の近代化の歴史の中で、西洋との接触開始以降の日本人が内包することになったアイデンティティの重層性のルーツを確認し、自らの立ち位置を見つめるためにこそ学ばれてきました。世界的なドイツ語教育の文脈では特異であろうとも、こうした文化的・学術的な観点でのドイツ語学習・教育は、日本の文脈では極めて重要であり、その意義は現在でも失われていないと考えられます。

日本独文学会ドイツ語教育部会は、ドイツ語の学習・教育を巡るこうした多様な意見を交換し、議論するための協働の場たらしめることを共通理解とし、2012年5月中旬、新たに選出された境 一三部会長(慶應義塾大学)の下で、新体制がスタートしました。JACET会員の先生方とも意見交換を重ねつつ、日本におけるさまざまな外国語の運用能力の総体が増大することを目指して、

今後も活動を続けて参ります。いっそうのご支援・ご協力を頂ければ幸いです。



2011年10月開催のシンポジウムの冒頭で趣旨を説明する筆者

(日本独文学会ドイツ語教育部会サイト：
<http://www.vdjournal.org/>)

特色ある 大学英語教育プログラム 短大英文学科における 「ホスピタリティ教育」の 導入について

森越 京子
(北星学園大学短期大学部英文学科)

北星短大英文学科では、学生の卒業後の選択肢として、4年制大学への編入や留学、また就職とさまざまな可能性がある。しかし、どのような進路を選択しても、多くの学生が、航空業界、ホテル、旅行会社等へ就職を希望しており、ホスピタリティ・マネジメント関連科目の必要性が議論されていた。観光産業で使用される英語表現の習得を目指すだけではなく、英語で「ホスピタリティマインド」や「ホスピタリティ産業」について学ぶ教授法の研究や、学生向けの教科書・教材を含む総合的なカリキュラムの研究の重要性が指摘されていた。

本学科は1993年より英語による一般教育科目を学科のコア科目と位置付け英語教育環境の充実

を図り、さらに、世界英語を意識したインターナショナル・チュータープログラムや、オンディマンド教材開発とそのインターネット配信など、アカデミックな環境での「専門職業人となる人材の基盤的英語教育カリキュラム」を完成させた。2008年度より、これらのプログラムを加え、「ホスピタリティ教育と英語教育」に関して学科をあげて共同研究に取り組んできた。同時に、University of Nevada Las Vegas (UNLV) Singaporeと連携しながら、北海道で研究会を実施し、アジア太平洋地域におけるホスピタリティ教育の将来展望について学び、さらに地元の観光学専門家と北海道におけるホスピタリティ産業の現状やホスピタリティ教育の実践、教育方法について意見交換を行ってきた。2009年12月には、本学科学生15名と地元の高校生がUNLV Singaporeで、約3週間の語学研修を受け、その間シンガポールのホスピタリティ産業を見学する機会を得た。

これらの経緯から本学科では、ホスピタリティ関連3科目を2011年度の新カリキュラムに導入した。初年度は、日本語による「総合講義ホスピタリティ」を実施し、地域の専門家や企業と連携して教育を行った。さらにインターンシップを単位化して、学外での実践の場を設けた。2012年度からは英語による講義「ホスピタリティと観光(Hospitality and Tourism)」を導入し、ゲストスピーカーの招聘や英語テキストの選定など準備を進めている。

【総合講義ホスピタリティ】

この科目は、1年生後期科目に設定され、学内外のゲストスピーカーをお招きし、幅広い職業選択の可能性や、ホスピタリティ関連企業の現状な



どについて基本的な内容を学ぶものである。また、学外での実践的な学びの場として、公益財団法人札幌国際プラザや外資系ホテルでのフィールドワークも実施した。さらに、学生の積極的な参加を目指し、グループによる調査・プレゼンテーションを取り入れた。授業ではMoodleのインターネット学習環境を活用し、課題や各講義についてコメントの提出などをオンライン上で行った。

【インターンシップの実施】

学科主導のインターンシップを単位化して、北海道ニセコ町の外資系ホテルで実施した。道内では外国人観光客の多い地域であり、職場にも多く外国人スタッフが従事し、英語を使う機会や異文化に触れる可能性が高いという点からニセコが選ばれた。大学での事前研修後、ホテルでの8日間のインターンシップという限られた時間であったが、学生が得たものは大きく、英語だけでなく、韓国語や中国語といった他の外国語の必要性も強く感じていた。終了後のフィードバックから、学生それぞれがホスピタリティとは何か、またゲストへのより良いサービスとはなにかを考えて研修を受けていた様子がうかがえる。また、インターンシップとはいえ、企業の一員としてプロ意識を持つこと、日本語でも英語でも職場では丁寧に話さなくてはならないと実感したようである。

【ホスピタリティと観光(Hospitality and Tourism)】



2012年度2年生前期科目としてスタートした「ホスピタリティと観光」は、担当教員からの講義と、海外からのゲストスピーカーによる一部集中セミナー形式の15週間の半期科目とした。さらに、学生が、学外での研究会の運営にも携るという実践を目指した。これは、シンガポールやマ

レーシアのホスピタリティや観光学科での実践を取り入れたものであり、各国で行われた国際学会では、Convention Managementを学ぶ学部生が、単位化されたプログラムとして、学会を運営する一翼を担っていた。



テキストとして、海外の大学レベルの教科書“Introduction to Hospitality Industry”を採用したいと考えたが、本学の短大生が半期で学ぶには内容が多く、American Hotel & Lodging Educational Instituteが出している教科書から必要なchapterを選び、本学学生に合うようにカスタマイズして製本していただいた。また、この団体が出版している英語DVDを活用して、具体的なビジネス事例を英語で学んでいる。これらのテキストや教材は、アメリカのビジネス実践について書かれており、ディズニーやマクドナルドなどの具体例などが盛り込まれ大変読みやすい内容である。しかし、新しい分野を英語で学ぶ事は容易ではなく、講義では、英語テキストの読み方からサポートし、その内容を講義終了後に、オンラインの小テスト、コメントを書くことで確認している。まだ始まったばかりの授業であり、この科目の成果についてはまた報告をしたい。

北星短大英文学科における「ホスピタリティ教育」は、「キャリア教育」の一環として、将来どのようなキャリアを選択しても有益な内容となるであろう。一見、英語教育に直接関わらないように感じるが、「ホスピタリティ教育」を通し、学生の英語学習モチベーションを高め、社会のニーズに合った英語教育を提供し、英語を使う機会をさらに広げることができればと期待している。最後に、平成24年度～26年度の科研費(24501167)採択事業として、プログラムの充実を図り、さらなる研究を進めることができることに感謝したい。

本部便り

代表幹事 河野 円 (星薬科大学)

2012年度より代表幹事を仰せつかりました、河野(かわの)と申します。オリンピックイヤーの今年、尾関直子先生からバトンを受け継ぎ、JACETを走らせるために力を尽くしたいと思っております。どうかよろしくお願ひ申し上げます。

本部通信として、本年度の役員と7月以降の主な行事予定をお知らせ致します。

●2012年度役員

【理事】 神保尚武(会長)、寺内一(副会長、総務、50周年記念誌作成、EBP調査研究特別)、山内ひさ子(副会長、国際交流)、高橋恒一、山口光(外部理事)、河合靖(北海道支部長)、小嶋英夫(東北支部長)、木村松雄(関東支部長)、大石晴美(中部支部長)、野口ジュディー津多江(関西支部長)、松岡博信(中国・四国支部長)、樋口晶彦(九州・沖縄支部長) 浅川和也(財務、セミナー事業)、尾関直子(広報・通信)、河野円、笹島茂(研究会担当)、中野美知子(大学英語教育学会賞選考、第3次ICT調査研究特別)、大森裕實(ネットワーク管理)、梅咲敦子(紀要)、木村博是(全国大会)

【監事】 駒田誠、見上晃

【副支部長】 横山吉樹(北海道)、高橋潔(東北)、笹島茂(関東)、大森裕實(中部)、小栗裕子、田地野彰(関西)、岩井千秋(中国・四国)、上村俊彦(九州・沖縄)

【本部幹事】 河野円(代表幹事、総務委員長)、上田倫史、湯澤伸夫(副代表幹事)、湯澤伸夫(財務委員長)、馬場千秋(全国大会運営委員長)、大須賀直子(広報・通信委員長)、下山幸成(ネットワーク管理委員長)、木村みどり(紀要委員長)、河内山晶子(セミナー事業委員長)、相川真佐夫(国際交流委員長)、山崎敦子(研究会担当委員長)、佐野富士子(大学英語教育学会賞選考委員長)

【支部幹事】 [北海道支部] 内藤永(事務局幹事)、尾田智彦(幹事)、[東北支部] 廣渡太郎(事務局幹事)、倉内早苗(幹事)、[関東支部] 高木亜希子(事務局幹事)、伊東弥香(幹事)、[中部支部] 石川有香(事務局幹事)、榎木蘭鉄也(幹事)、[関西支部] 植松茂男(事務局幹事)、金丸敏幸、里井久輝、

照井雅子、東郷多津、仁科恭徳(幹事)、[中国・四国支部] 平本哲嗣(事務局幹事)、高橋俊章、三宅美鈴(幹事)、[九州・沖縄支部] 金岡正夫(事務局幹事)、柿元悦子(幹事)

【社員】 [北海道支部] 8名 [東北支部] 7名 [関東支部] 45名 [中部支部] 15名 [関西支部] 26名 [中国・四国支部] 10名 [九州・沖縄支部] 11名 [本部] 10名 計132名

●2012年度主な行事日程(7月以降)

7月

7日(土) 関東支部月例研究会(青山学院大学)

(未定)『JACET50周年記念誌』発行(予定)

1日(日)『JACET通信』184号 発行(日本語版)

6日(金) - 7日(土) KATE 2012 International Conference(ソウル・大韓民国)

7日(土) 九州・沖縄支部研究大会(長崎県立大学シーボルト校) / 支部総会

7日(土) 東北支部大会(エル・ソーラ仙台(予定)) / 支部総会

14日(土) 北海道支部大会(北海学園大学) / 支部総会

21日(土) 運営会議

28日(土) 関西支部第1回講演会(同志社大学今出川キャンパス(予定))

30日(月)『中国・四国支部ニューズレター』8号発行

8月

(未定) ICT調査研究特別委員会中国・四国支部講演会

4日(土)『関西支部ニューズレター』62号発行(Web版)

19日(日) ~ 22日(水) 第39回JACETサマーセミナー(草津セミナーハウス)

30日(木) 支部長会議・臨時理事会(第1回)(愛知県立大学)

30日(木) 全国委員会(同上)

31日(金) ~ 2日(日) 第51回(2012) JACET国際大会(愛知県立大学)

9月

2日(日) 会員総会 / JACET賞表彰

(未定) 2012 PEKETA International Conference(Busan、大韓民国)

22日(土)(予定) ICT調査研究特別委員会特別シンポジウム(早稲田大学)

10月

(未定) 関東支部月例研究会

6日(土) 中部支部講演会(中京大学)

6日(土) 関西支部第2回講演会(神戸国際会館(予定))

20日(土) 運営会議

27日(土) 中国・四国支部研究会(安田女子大学)

27日(土) 『関西支部ニューズレター』63号発行

31日(水) 『紀要』55号刊行

11月

(未定) 北海道支部研究会(未定)

(未定) 2012 ALAK Conference(大韓民国)

1日(木) 『JACET通信』185号(大会特集号(日本語版))発行

9日(金) - 11日(日) The 21st International Symposium and Book Fair on English Teaching (ETA-ROC大会)(台北市、台湾)

17日(土)(予定) 九州・沖縄支部秋季学術講演会(西南学院大学(予定))

17日(土) 運営会議

24日(土) 関西支部秋季支部大会(京都産業大学) / 支部総会

12月

(未定) 中部支部定例研究会 / 支部総会(中京大学(予定))

(未定) 『中部支部紀要』10号刊行

(未定) 『中部支部ニューズレター』29号発行

(未定) 関東支部総会(青山学院大学)

1日(土) 『JACET通信』186号(日本語版)発行

1日(土) 『会員名簿2012年度』発行

1日(土) 『九州・沖縄支部紀要』17号刊行

2日(日) 東北支部例会(エル・ソーラ仙台(予定))

15日(土) 中国・四国支部 地区大学間連携イベント: 大学生 Oral Presentation & Performance (OPP) 研究会(広島工業大学(予定))

15日(土) 運営会議

15日(土) 支部長会議(第3回)(JACET事務所)

16日(日) 臨時理事会(第2回)(JACET事務所)

22日(土) 中部支部定例研究会 / 支部総会(中京大学(予定))

1月

(未定) 北海道支部研究会(未定)

(未定) 33rd Thai TESOL International Conference (タイ)

(1月~3月 未定) AILA EBIC Business meeting (リオデジャネイロ)

20日(日) 『中国・四国支部ニューズレター』9号発行

26日(土) 運営会議

30日(水) 『北海道支部紀要』10号刊行

2月

9日(土)(予定) 関西支部共催セミナー: 関西英語教育学会(未定)

23日(土) 中部支部定例研究会(中京大学)

3月

(未定) EBP調査研究報告書刊行(予定)

(未定) 関東支部月例研究会

1日(金) 『JACET通信』187号(英語Web版)発行

9日(土) 関西支部第3回講演会(関西学院大学 大阪梅田キャンパス(予定))

16日(土)(予定) 運営会議

22日(金) 支部長会議(第4回)(JACET事務所)

23日(土) 第2回定例理事会(早稲田大学(予定))

23日(土) 第2回定例社員総会(早稲田大学(予定))

23日(土)(予定) 第22回春季セミナー(早稲田大学(予定))

25日(月) 『JACET関東支部学会誌』(通算第9号)刊行

31日(日) 『紀要』55号刊行

31日(日) 『ICT調査研究特別委員会活動報告書』刊行

31日(日) 『北海道支部ニューズレター』26号発行

31日(日) 『東北支部通信』39号発行

31日(日) 『関西支部紀要』15号刊行

31日(日) 『中国・四国支部研究紀要』10号刊行

社員総会報告

総務担当理事 寺内 一（高千穂大学）

社団法人 大学英語教育学会 平成23年度第2回定例社員総会議事録

日 時：平成24年3月24日（土）15時00分～
16時00分

会議場：東京都新宿区西早稲田1丁目6番1号
早稲田大学7号館205教室

総社員数： 132名

出席社員数： 102名

内訳 本人出席 15名（出席者名簿別添）
委任状出席 87名（委任状出席者名簿別添）
よって『定款』第32条の規定の定足数以上
を充足

陪席者：14名（陪席者名簿別添）

議 長：渡辺敦子

副議長：河野円、上田倫史

書 記：河野円、上田倫史

議事録署名人：河野円、上田倫史

I. 開会

寺内一総務担当理事より、定款所定の定足数を満たした旨の報告があり、社員総会の開会が宣言された。

II. 会長挨拶

神保尚武会長より、社員総会にお集まりくださりありがとうございますとの御挨拶があった。

III. 議長選出

寺内一総務担当理事が議長の選出について諮ったところ、議長に渡辺敦子氏が選出された。

IV. 議事録署名人選出

議長が議案審議に先立ち、副議長および、議長の他の議事録署名人2名について、河野円氏と上田倫史氏の両名を指名したい旨提案があり、異議なく両名が承認された。

V. 報告

1. 総務関係報告

寺内一総務担当理事より、議事資料に基づき、以下の報告があった。

(1)平成24年2月20日現在の会員数(2,749名)。

(2)東日本大震災義援金(45,150円)を、日本赤十字社を通じて寄付した。

(3)「感謝状贈呈ガイドライン」により、平成23年度末に感謝状を木下正義氏、小林ひろみ氏、沼野治郎氏、山岸信義氏の4名に贈呈する。

2. 50周年記念事業関係報告

(1)記念刊行事業：岡田伸夫記念刊行事業担当理事に代わり寺内一総務担当理事より、平成23年7月10日に第2巻および第5巻が発行され「英語教育学大系」全13巻の刊行が終了した旨、報告があった。

(2)第50回記念国際大会：山内ひさ子第50回記念国際大会大会委員長より、平成23年8月31日より9月2日まで西南学院大学において同大会が開催され、参加者1000人を超える盛会であった旨、報告があった。また、福岡観光コンベンションビューローおよび西南学院大学より大会開催補助のご寄付をいただいた旨、報告があった。

(3)50周年記念誌：寺内一創立50周年記念誌作成委員会担当理事より平成24年6月に発行予定である旨報告があった。

(4)寄付事業：寺内一総務担当理事から、平成22年5月より開始した創立50周年記念寄付事業はJACET通信182号で会員へ報告した通り、寄付金総額4,555,000円となり本年度末で終了する旨報告があった。

VI. 議案

第1号議案 平成24年度人事の件

1. 役員の退任および就任

寺内一総務担当理事より、任期満了による役員改選にあたり、役員（任期：平成24年4月1日から平成26年3月31日まで）の重任・新任について説明があり、次の者が推薦された。議長がこれを諮ったところ、異議なく選任され、被選任者はいずれもその就任を承諾した。

理事 神保 尚武（早稲田大学教授）（重任）

理事 寺内 一（高千穂大学教授）（重任）

理事 山内 ひさ子（長崎県立大学教授）（重任）

理事 浅川 和也（東海学園大学教授）（重任）

理事 梅咲 敦子 (関西学院大学教授)(新任)
理事 大石 晴美 (岐阜聖徳学園大学教授)(新任)
理事 大森 裕實 (愛知県立大学教授)(重任)
理事 尾関 直子 (明治大学教授)(重任)
理事 河合 靖 (北海道大学教授)(新任)
理事 河野 円 (星薬科大学教授)(新任)
理事 木村 博是 (近畿大学特任教授)(新任)
理事 木村 松雄 (青山学院大学教授)(重任)
理事 小嶋 英夫 (弘前大学准教授)(重任)
理事 笹島 茂 (埼玉医科大学准教授)(重任)
理事 高橋 恒一 (元三井住友海上火災保険株式会社顧問)(重任)
理事 中野 美知子 (早稲田大学教授)(重任)
理事 野口 ジュディ 津多江 (武庫川女子大学教授)(重任)
理事 樋口 晶彦 (鹿児島大学教授)(新任)
理事 松岡 博信 (安田女子大学教授)(重任)
理事 山口 光 (社団法人共同通信社顧問)(重任)
監事 駒田 誠 (駒田誠税理士事務所所長)(新任)
監事 見上 晃 (拓殖大学教授)(新任)

引き続き、寺内一総務担当理事より、会長選挙の結果を受けて、神保尚武氏を会長とすること及び寺内一氏と山内ひさ子氏を副会長とすることについて説明があり、議長がこれを諮ったところ、異議なく承認された。専務理事と常務理事については、平成24年度第1回理事会で正式決定となる。

なお、平成24年3月31日をもって退任(重任せず)する役員は、以下のとおり。

理事：岡田伸夫氏、小宮富子氏、芝垣茂氏、高井收氏、原田園子氏、南出康世氏、山岸信義氏

監事：椿忠男氏、矢田裕士氏。

2. 社員の交替

寺内一総務担当理事より、任期満了による社員改選にあたり、社員(任期：平成24年4月1日から平成26年3月31日まで)について、別添の社員一覧の提案があり、議長がこれを諮ったところ、異議なく承認された。

3. 運営委員長・運営委員等

寺内一総務担当理事より、その他運営委員等の人事案について説明があり、異議なくすべて承認された。

第2号議案 平成24年度活動計画・予算の件

1. 平成24年度活動計画

寺内一総務担当理事より説明があり、下記1～5号事業がすべて原案通り承認された。

(1) 1号事業 大学英語教育及び言語教育関連の研究理論の発表及びその実践結果の報告のための大会、セミナー等の開催

(2) 2号事業 紀要、学会誌等の出版物の刊行

(3) 3号事業 大学英語教育に係る国内外の研究者・学術団体・諸機関の実践活動に対する表彰及び協力

(4) 4号事業 大学英語教育及び言語教育関連の理論及びその実践方法に関する調査・研究

新しくEBP(English for Business Purposes)調査研究を一般財団法人国際ビジネスコミュニケーション協会との共同研究として行う。

(5) 5号事業 その他のこの法人の目的を達成するために必要な事業、特に、一般社団法人への移行認可申請を行う。

2. 平成24年度予算

浅川和也財務担当理事より予算案について説明があり、原案通り、承認された。

第3号議案 新法人への移行の件

1. 定款案

平成23年度第1回定例社員総会において決議された一般社団法人への移行認可申請に必要な一般社団法人大学英語教育学会の定款案について、寺内一総務担当理事から説明があった。議長より、次回の平成24年度第1回定例社員総会において、最終定款変更案を承認したい旨の提案があり、これを承認した。

2. その他

寺内一総務担当理事より、一般社団法人への移行認可申請へ必要な公益目的事業計画については平成24年度第1回定例社員総会において最終案を提示し、定款変更案とともに最終審議をお願いしたい旨提案があり、これを承認した。一般社団法人移行後の諸規定の変更については、一般社団法人定款が確定後に社員総会に諮り審議をお願いしたい旨提案があり、これを承認した。

Ⅶ. 閉会

以上をもって社団法人大学英語教育学会社員総会の議事を終了したので、議長は閉会を宣した。

上記の決議を明確にするため、議長及び議事録署名人は、次に署名押印する。

平成24年3月24日

社団法人大学英語教育学会
平成23年度第2回定例社員総会
議長 渡辺敦子

議事録署名人 河野円
議事録署名人 上田倫史

社団法人大学英語教育学会 平成24年度事業計画

平成24年度は本学会が社団法人となって4年目を迎える年である。社会的責任と、研究・教育に対する一層の良心的熱意を持って活動がさらに行われることになる。また、今年度は一般社団法人への移行申請を行う予定である。

1号事業：大学英語教育及び言語教育関連の研究理論の発表及びその実践結果の報告のための大会、セミナー等の開催

(1) 大学英語教育学会第51回国際大会の開催

目的：大会ごとにテーマを決定し、大学英語教育及び関連分野の理論及びその実践に関する調査・研究の発表を行い、会員である全国の大学教員等に調査・研究内容をフィードバックすることが大会の目的である。今回の大会では、大会テーマを「大学英語教育への言語理論の応用—コンテンツとコンテキストを重視して」とし、大学英語教育とその関連分野の理論・実践に関する調査・研究の発表を行い、会員である全国の大学教員等に調査・研究内容をフィードバックする。当該調査・研究発表内容は会員が大学等の授業で実践することで、わが国の英語教育の向上と改善に資することを目的とする。

対象：本学会の会員及び英語教育関係者、国内外の言語教育関係者など。

規模：全国大会約700名。

広報：・会員に対しては、学会ホームページと『JACET通信』を通じて広く知らしめる。

・その他の英語教育関係者に対しては、学会ホー

ムページと、一般商業雑誌の学会情報（『英語教育』『英語青年（Web版）』など）を通じて行う。

・国内外の関係諸学会に「第51回国際大会案内」を送付する。

・マスコミ各社に「国際大会案内」を送付する。

成果：・会員には11月に刊行される『JACET通信大会特集号』で全体報告と、基調講演者、全体シンポジウム、各シンポジウムなどの報告が行われる。

・マスコミ各社からの取材があった場合には新聞などに掲載する予定である。

・上記の『JACET通信第51回国際大会特集号』は学会ホームページに掲載される。

・この大会で披露された研究成果や知見が各研究者の研究活動に大きな道標となる。

・この大会で披露された研究成果や知見を広く普及させることで、会員をはじめ英語教育関係者がより専門性の高い教育研究を行う成果が期待される。

(2) セミナーの開催

① JACETサマーセミナーの開催

目的：テーマは“Advanced ESL and ESP Reading”でDr. William GrabeとDr. Fredricka Stoller を招待する。国内からは、読解およびESPの研究を推進されている、J. 野口先生、田近裕子先生を招待する予定である。また公募の形で、参加者による発表も行い、互いに研鑽し合う場を提供することを目的とする。

対象：当学会の会員・その他の英語教育関係者。

規模：約50名。

広報：・会員に対しては『JACET通信』を通じて告知する。

・一般には、案内を学会ホームページに掲載するほか、月刊の『英語教育』、『英語青年（Web版）』などに掲載する。

・英語教育関係団体に案内を送付する。

成果：講演および発表内容を後日まとめて刊行する。全国大会、春季セミナー、サマーセミナー等の機会に本刊行物を普及している。また、本セミナーをきっかけに、特定テーマに関心をもつ参加者が活動することになる。

② 春季セミナーの開催

目的：テーマ「小中高大一貫の英語教育に向けて、小・中学校英語教育を土台として」（仮）に関心のある、小学校、中学校、高校、大学等の英語教

員、および英語教育関係者が集まり、講演、質疑応答、討議を通じて、お互いの知見を深め、実践に役だてる。それとともに、参加者間の情報交換や交流を図る。

対象：小中高大学英語教員および英語教育関係者
規模：約60名。

広報：・会員に対しては『JACET通信』を通じて告知する。

・一般には、案内を学会ホームページに掲載するほか、月刊の『英語教育』、『英語青年（Web版）』などに掲載する。

・英語教育関係団体に案内を送付する。

成果：本セミナーをきっかけに、当該テーマに関心をもつ参加者が実践上の知見を広める機会となり、参加者間の交流も活発になっている。

(3) 支部大会の開催

7つの支部（北海道支部、東北支部、関東支部、中部支部、関西支部、中国・四国支部、九州・沖縄支部）では、大学英語教育及び関連分野の理論及びその実践に関する調査・研究の発表を行うことを目的に、年に一回は支部大会が開催される（関西支部は春季大会と秋季大会の2回を予定している。）ただし、平成24年度の中中部支部大会は、第51回国際大会が開かれるので、支部大会は行わない。

(4) 支部研究会・支部講演会の開催

それぞれの支部で、活発に研究会や講演会を開催する予定である。北海道支部研究会（北海道支部）、関東支部月例研究会（関東支部）、特別講演会、支部講演会、支部研究会の開催（中部支部）、支部第1、第2、第3回講演会（関西支部）、支部研究会（中国・四国支部）、九州・沖縄支部春季学術講演会及び九州・沖縄支部秋季学術講演会（九州・沖縄支部）などがある。

2号事業：紀要、学会誌等の出版物の刊行

(1) 『紀要』の刊行

JACET『紀要』の刊行を行う。

目的：大学英語教育及び関連分野の理論及びその実践に関する調査・研究成果を学会公認の論文誌として刊行することにより、わが国の英語教育の改善に資することを目的とする。

対象：会員・その他の英語教育関係者（国立国会図書館・大学基準協会・国立情報研究所電子図書

館サービス・コンピュータ利用協議会・全国語学教育学会・海外提携学会等）

規模：毎号3,000冊。刊行された出版物は、関係省庁（文部科学省等）や、地方公共団体の教育委員会、英語教育関係団体、大学図書館等に無償で献本され、学会の研究成果の公開及び普及啓発を行う。非会員に対しては実費相当額程度で有償配布をする。

広報：・投稿規程はJACETホームページと紀要54号巻末に掲載する。ホームページにはテンプレートも掲載して投稿を促進する。

・紀要委員会が編集、校正を行う。

成果：1つの投稿論文は該当分野の専門家3名に査読を依頼し、独創性、構成・論理性、研究の水準等を総合的に評価する。それらを紀要委員会で最終判断した後、紀要委員会にて、その論文が英語教育の改善に寄与するものであるかを鑑みて最終的に掲載、非掲載を決定する。採択率は毎回、2分の1から3分の1程度であり、日本における英語教育のトップレベルの論文集であると自負するものである。

・JACET紀要への掲載は執筆者にとり大きな業績となるのみならず、研究者同士の情報交換の場として更に活発な研究の促進が期待される。

・海外に対し、日本の英語教育に関する最新事情を発信することが可能となる。

(2) 『JACET通信』の刊行

目的：学会の最近の動向や大学英語教育の研究と実践の優れた例を会員に紹介する。また、英語版により、英語を母語とする教員にも理解せしめる。また、世界にJACETの活動を知らしめることが可能となる。日本語版、英語版のほか、Web版がある。

対象：会員・その他の英語教育関係者（国立国会図書館・大学基準協会・国立情報研究所電子図書館サービス・コンピュータ利用協議会・全国語学教育学会他）。なお、Web版についてはHPに掲載するので一般の人でも閲覧が可能である。

規模：会員全員に配布。刊行された出版物は、関係省庁（文部科学省等）や、地方公共団体の教育委員会、英語教育関係団体、大学図書館等に無償で献本され、学会の研究成果の公開及び普及啓発を行う。

成果：学会の最近の動向や大学英語教育の研究と実践の優れた例を紹介することにより、会員の大

学英語教員としての意識を向上させることが可能となる。また、国内他学会からの寄稿により、学際的な教育や研究の動向を知ることができる。

(3) 『JACET50周年記念誌』の刊行

目的：『JACET40周年記念誌』発行後の10年間の各委員会と各支部の活動を記録し、JACET設立50周年と各支部設立以来の活動を振り返り、JACETの将来の活動と発展につながる資料を作成し、全会員に配布する。

対象：全会員、及び友好団体に配布する。

規模：3000冊

成果：JACETの歴史を振り返る貴重な資料集となるだけにとどまらず、JACETの将来を考えていくうえでの資料となる。

(4) 支部紀要及び支部ニューズレターの刊行

7つの支部では、それぞれ支部紀要、支部ニューズレターを刊行する。

①北海道支部

北海道支部紀要10号、JACET北海道支部ニューズレター26号の刊行

②東北支部

JACET東北支部通信No. 39の刊行

③関東支部

JACET関東支部学会誌(JACET-KANTO Journal)(通算第9号)の刊行

④中部支部

中部支部紀要第10号の刊行、JACET-Chubu Newsletter No.28・No.29の刊行

⑤関西支部

JACET関西支部ニューズレター60-63号の刊行

⑥中国・四国支部

大学英語教育学会中国・四国支部研究紀要第10号、大学英語教育学会中国・四国支部ニューズレター第8号・第9号の刊行

⑦九州・沖縄支部

The JACET Kyushu-Okinawa Chapter Annual Review of English Learning and Teaching第17号、JACET九州・沖縄支部ニューズレター No. 28の刊行

3号事業：大学英語教育に係る国内外の研究者・学術団体・諸機関の実践活動に対する表彰及び協力

(1) 大学英語教育学会賞の表彰（学術賞・新人賞・

実践賞）

大学英語教育学会学術賞・実践賞・新人賞の審査結果に基く表彰を行う。

目的：英語教育における研究または実践上の顕著な業績を通してわが国における大学英語教育の改善に寄与した個人または団体に対して表彰を行うことにより、わが国の大学教員等の英語教育に対する意識を高めることを目的とする。

対象：

①「学術賞」は推薦時までの約1年間に公刊された、英語教育に関連した分野における高度な学術研究が対象となる。

②「新人賞」は、本学会の前年度全国大会における研究発表・実践報告および本学会紀要に発表された優れた研究または実践が対象となる。

③「実践賞」は、大学、短期大学、または高等専門学校における英語教育で顕著な成果を上げた実践が対象となる。

規模：賞は上記の成果を収めた個人または団体に対して、学会内に設置する大学英語教育学会賞選考委員会の選考を経て理事会が決定し全国大会で授賞する。授賞は原則として各賞について年度ごとに1件とする。受賞者に対しては賞状とともに記念品を贈呈する。

成果：本大学英語教育学会賞は、受賞者に対しては研究者としての功績を称えることにより、研究活動に一層精進することを奨励することになり、一般会員に対しても本学会賞を目標として各自の研究を発展させることを導く要因となることが期待される。

(2) 関係学術団体への派遣

本学会から海外学術団体へ優れた英語教育関係者の派遣を行う。

目的：海外提携学会の大会へ講演者等として派遣され、本学会代表として参加することにより、関係諸学会との人的及び学術交流の促進を図る。

対象：学会社員又は理事

規模：海外10団体、RELC (Regional Language Centre)、KATE (The Korea Association of Teachers of English)、IATEFL (International Association of Teachers of English as a Foreign Language)、ALAK (The Applied Linguistics Association of Korea)、ETA-ROC (English Teachers Association of the Republic of China)、MELTA (Malaysian English Language Teaching

Association)、PKETA (Pan-Korea English Teachers Association)、AILA (Association Internationale de Linguistique Appliquée)、Thai TESOL (Thailand TESOL)、CELEA (China English Language Education Association) が対象。成果：学会として海外との学術交流を行い、情報交換を活発にして研究活動を促進する。さらに、その成果は学会ホームページや『JACET通信』に掲載され本学会が国際的にも認知されていることを会員はもちろん、国内外の英語教育関係者に知らせることになる。

4号事業：大学英語教育及び言語教育関連の理論及びその実践方法に関する調査・研究

(1) 全国レベルの調査研究

① 第二次ICT (Information and Communication Technology) 調査研究

1) 平成24 (2012) 年度ICT調査研究特別委員会特別シンポジウム講演会の開催

2007年度、2008年度、2009年度、2010年度、2011年度に続き、2012年度も1) 今日からできるICT活用法シリーズ講習会、2) 特別講演会、3) 一般発表、の三部構成とし、ICTを活用した語学教育の実践・評価・理論を今後の発展につなげていける活動内容とする。

目的：IT技術の発達に伴い、自国にしながら世界の若者たちが話し合い、お互いの理解を深めることが可能になっている。本委員会では、大学間協調を目指して、ICTの発達に見合った英語教育の方法の開発と評価に取り組む。

対象：全国のJACET会員、LET関東支部会員、オンデマンド授業流通フォーラム会員、その他ICTを利用した語学教育に関心のある方

規模：約50名

成果：本特別委員会はこれまで、青山学院大学で行われているモバイル学習や、早稲田大学の異文化交流授業、山形大学のVodcastingなど、各大学で行われている特殊な取り組みに関して一同に集まって情報交換をする場を設けてきた。また、まだ取り組みを始めていない教員に対しては「今日からできるICT活用法シリーズ」講習会を設けて、初めの一步を踏み出せるよう、ICT利用の全国的な底上げに力を入れてきた。平成24年度の講演会も、各大学の新たな取り組みや成果について学

び合い、全国的な輪を広げていけると期待できる。講演会での発表内容は、例年通り、報告書として論文集にまとめる予定である。

2) ICT調査研究特別委員会九州・沖縄支部講演会、中部支部講演会、中国・四国支部講演会の開催
2011年度に引き続き、九州・沖縄支部、中部支部、中国・四国支部ではICTを授業に取り入れる方法に関する講習会を行う。また、各教員が授業で行っている取り組みについて成果発表する場を設ける。

対象：全国のJACET会員全員

規模：未定

成果：ICT調査研究特別委員会では、2007年度以来、年に2回ずつ全国会員に向けた講習会・講演会を開催してきた。北海道や九州からも参加者はあるものの、大半の参加者は関東圏からであるため、本特別委員会の活動を全国的に広げるためには、支部単位で講習会・講演会を開催する必要がある。平成24年度に講演会を開催する三支部から、各地域でのICT活用授業の実践状況が報告されることが期待できる。各支部からの報告および関東で行われる全体講演会の成果は、平成24年度の報告書に論文集としてまとめる予定である。

3) 報告書の刊行

平成24 (2012) 年7月に開催する全体講演会での発表内容および、各支部講演会での発表内容を、参加者以外にも知らせるため、報告書にまとめる。ICTを活用した語学教育の現状を、2007年度と2008年度、2009年度、2010年度、2011年度に引き続き年度ごとにまとめ、会員が参考にできるようにする。

対象：ICT調査研究特別委員会会員と、全国のJACET役員に配布する予定である。

規模：300冊 (約200ページ)

成果：ICT調査研究特別委員会の報告書は、研究論文ばかりではなく、各教員が授業にICTをどのように取り入れているかについての報告も掲載している。報告書の形で毎年活動成果をまとめることにより、ICT利用の発展や、各大学での取り組みがわかり、今後ICTを語学授業に取り入れる者にとっての良い指針となる。

②EBP (English for Business Purposes) 調査研究

企業国際部門責任者が社員に期待する英語コ

コミュニケーション能力 (EBP = English for Business Purposes)に関する調査 (産学連携プロジェクト) (国際ビジネスコミュニケーション協会と JACET- ESP 研究会との共同研究) を EBP 特別委員会 (仮称) が担当して行う。

目的：企業国際部門責任者が社員に期待する英語コミュニケーション能力に関する調査を財団法人国際ビジネスコミュニケーション協会 (以下、IBC) と JACET の各支部の ESP 研究会との共同研究という形式で行う。

対象：大学英語教育学会会員全会員、及び友好団体に調査結果を知らせる (周知方法は予定)

規模：全会員に調査結果を知らせる。

成果：報告書 (印刷物、PDF 等で広く配布) と要約を作成する。プレスリリース、学会・研究会・セミナーでの発表、主要誌にて記事特集等、両協会 HP にて掲載、その他も活用して会員だけでなく社会に広く知らせていくことにより、本研究結果が利用されていくことになる。

(2) 専門分野別の研究会活動 (毎年継続事業)

大学英語教育学会の各支部にはそれぞれの地域の研究や教育の活性化と協力を意図して、専門英語教育 (ESP : English for Specific Purposes) 研究会、英語語彙研究会、東アジア英語教育研究会などの研究会がある (41 研究会)。各研究会はそれ

ぞれの分野での調査研究を基盤として、会員の資質向上、書籍出版、教材開発、紀要等での論文発表などの活動を行っている。委員会はそれらの各研究会の活動の支援をする。

目的：各研究会専門分野の調査研究

対象：大学英語教育学会会員

規模：41 研究会 (北海道4、東北2、関東17、中部7、関西8、中国四国1、九州沖縄2)

成果：上記の活動により、大学英語教育の発展に寄与し、会員相互の専門知識と技能の向上、会員の知見による学術の発展及び社会への還元などの成果が期待される。

5号事業：前各号に掲げるもののほか、この法人の目的を達成するために必要な事業

定例及び必要な場合には臨時の、理事会、社員総会、支部長会議、運営会議、運営委員会、特別委員会等を開催し、必要な事業について検討を行う。さらに、平成25年の4月1日の一般社団法人への移行を目指し、定款変更案、公益目的支出計画案等の作成を行い、移行認可申請を行う。各支部では、支部総会、支部委員会等を開催し、支部の事業について検討を行う。

以上

社団法人大学英語教育学会
平成24年度収支予算書

(平成24年4月1日から平成25年3月31日まで)

(単位：円)

科 目	予 算 額	前年度予算額	増 減	備 考
I 事業活動収支の部				
1 事業活動収入				
① 基本財産運用収入				
基本財産運用収入	50,000	50,000	0	
② 会費収入	23,000,000	24,954,000	△ 1,954,000	実績を加味
③ 大会収入				
大会参加費収入	5,212,500	4,802,500	410,000	サマーセミナーを開催するため
大会展示料収入	1,765,000	1,975,000	△ 210,000	通常規模の全国大会となるため
広告料収入	1,362,500	1,110,000	252,500	50周年記念誌の広告料増加見込み
④ 事業収入				
印税・原稿料収入	2,700,000	2,500,000	200,000	既出版物に係る印税の増刷が見込まれるため
書籍販売収入	250,000	300,000	△ 50,000	実績を加味
⑦ 寄附金収入	100,000	2,100,000	△ 2,000,000	50周年記念寄付事業終了のため
⑧ 雑 収 入				
受取利息収入	5,000	20,000	△ 15,000	実績を加味
その他	300,000	340,000	△ 40,000	支部紀要等投稿料、実績を加味
事業活動収入計 (A)	34,745,000	38,151,500	△ 3,406,500	

科 目	予 算 額	前年度予算額	増 減	備 考
2 事業活動支出				
[1] 事業費支出 (小計)	25,550,378	32,130,111	△ 6,579,733	
(1) 大会セミナー等事業				
大会運営費	5,738,600	10,082,100	△ 4,343,500	通常規模の全国大会となるため
セミナー費	1,400,000	240,000	1,160,000	サマーセミナーを開催するため
通信費	656,100	615,600	40,500	
印刷費	1,931,000	1,808,000	123,000	サマーセミナーを開催するため
出張費	300,000	300,000	0	
(2) 出版物刊行事業				
50周年記念刊行事業費	2,050,000	4,640,000	△ 2,590,000	50周年記念誌の発行のみを行うため
通信費	2,043,700	1,880,900	162,800	
印刷費	4,699,000	4,791,000	△ 92,000	
(3) 表彰協力事業				
国際交流費	620,000	800,000	△ 180,000	実績を加味
JACET賞	200,000	300,000	△ 100,000	実績を加味
AILA加盟料	145,000	145,000	0	
(4) 調査研究事業				
特別委員会費	0	1,000,000	△ 1,000,000	委託事業として経費をJACETが負担しないため
研究活動費	1,886,978	1,819,511	67,467	
(5) その他事業				
渉外費	300,000	300,000	0	
会議費	2,844,000	2,202,000	642,000	移行申請準備会議の増加のため
通信費	736,000	1,206,000	△ 470,000	選挙を実施しない、実績を加味
[2] 管理費支出 (小計)	16,035,100	15,970,560	64,540	
人件費	7,800,000	7,810,000	△ 10,000	
社会保険料	500,000	450,000	50,000	健保+労災分
租税公課	100,000	100,000	0	
事務所経費	4,324,100	4,299,560	24,540	
支払手数料	3,211,000	3,211,000	0	
雑費	100,000	100,000	0	
事業活動支出計 (B)	41,585,478	48,100,671	△ 6,515,193	
事業活動収支差額	△ 6,840,478	△ 9,949,171	3,108,693	
II 投資活動収支の部				
1 投資活動収入				
① 特定資産取崩収入				
特定預金取崩収入	3,382,365	7,000,000	△ 3,617,635	50周年記念事業等特別委員会の財源。本年度で終了予定
② 運用財産繰入支出				
運用財産取崩収入	3,000,000	0	3,000,000	収支不足額補填のため
投資活動収入計 (C)	6,382,365	7,000,000	△ 617,635	
2 投資活動支出				
① 特定資産取得支出				
退職給付引当資産取得支出	156,000	156,000	0	
特定預金取得支出	0	0	0	
敷金支出	0	963,900	△ 963,900	
投資活動収支計 (D)	156,000	1,119,900	△ 963,900	
投資活動収支差額	6,226,365	5,880,100	346,265	
III 予備費支出 (E)	30,000	30,000	0	
当期収支差額 (A)-(B)+(C)-(D)-(E)	△ 644,113	△ 4,099,071	3,454,958	本年度は運用財産の取崩により補填
前期繰越収支差額	3,915,593	8,014,664	△ 4,099,071	
次期繰越収支差額	3,271,480	3,915,593	△ 644,113	

注) 1 借入金限度額 0円
2 債務負担額 0円

支部便り

*今号では、2012年2月1日から11月30日までの活動報告および活動予定について掲載いたします。

〈九州・沖縄支部〉

1. 支部大会、支部講演会、研究会等の開催

(1) 支部大会

①2012年度九州沖縄支部大会（予定）

日時：2012年7月7日(土)10:00～17:00

会場：長崎県立大学シーボルト校

大会テーマ：「日本の英語学習者の英語能力への質的・量的アプローチ」

(2) 研究会

①第117回東アジア英語教育研究会

日時：2月18日(土)15:30～17:30

会場：西南学院大学1号館205教室

研究発表

1) 「短大生の言語観の実態と世界の言語に関する知識—『英語学概論』での調査を通して—」
水島孝司（南九州短大）

2) 「欧州連合におけるCLIL型学習の動向と日本の外国語教育における可能性」
中西千春（国立音楽大）

3) 「授業でReaders Theatreを活用した英語の学び直し」
浅野享三（南山大）

②第17回ESP研究会

日時：2月18日(土)14:00～18:00

会場：鹿児島大学共通教育棟2号館212号教室

研究発表

1) 「Learner autonomyのためのESPに向けて—科研アンケート調査の目的と展望」
金岡正夫（鹿児島大）

2) “A Student centered approach to the ESAP required for international conference presentations”
John Foster（鹿児島大・非）

3) 「地域の国際化に貢献する栄養士養成のためのESP：ニーズ分析と教材開発」（中間報告）
津田晶子（中村学園大短期大学部）

4) 「トッパスリートと英語—自転車と海洋スポーツの場合—」

吉重美紀（鹿屋体育大）

5) 「医学英語論文作成の教育にむけた学習者コーパス分析」（中間報告）

横山彰三（宮崎大学）・鈴木千鶴子（長崎純心大）
荒木瑞夫（宮崎県立看護大）

③第118回東アジア英語教育研究会

日時：3月10日(土)15:30～17:30

会場：西南学院大学1号館205教室

研究発表

1) 「英語リズム学習中の脳波の変化—『英会話リズムメソッド』の理論—」

中野秀子（九州女子大）

④第119回東アジア英語教育研究会

日時：4月21日(土)15:30～17:30

会場：西南学院大学1号館205教室

研究発表

1) 「長崎大学における英語教育改革とG-TELP（国際英検）による学力分析」

小笠原 真司（長崎大学言語教育研究センター）

⑤第120回東アジア英語教育研究会

日時：5月12日(土)15:30～17:30

会場：西南学院大学1号館205教室

研究発表

1) 「クリティカル・シンキング理論のEFL学習者用ポートフォリオへの応用」

ペニンントン 和雅子（西南学院大学）

2) やずや研究助成プロジェクト報告「地域の国際交流のための英語教育：食文化を中心に」

津田晶子（中村学園大学短期大学部）

3) Foreign Workers in Japanese Universities: Are they qualified instructors or window dressing?

ランダル・ペニンントン (Randall O. Pennington Jr.)（中村学園大短期大学部・非）

⑥第121回東アジア英語教育研究会（予定）

日時：6月16日(土)15:30～17:30

会場：西南学院大学1号館205教室

研究発表

1) 田上優子（福岡女子大）

⑦第122回東アジア英語教育研究会（予定）

日時：7月14日(土)15:30～17:30

会場：西南学院大学1号館205教室

研究発表

1) 伊藤彰浩（西南学院大）

2) 島谷 浩 (熊本大)
3) 法月 健 (静岡産業大)
⑧第123回東アジア英語教育研究会 (予定)
日時: 9月15日(土)15:30 ~ 17:30
会場: 西南学院大学1号館205教室
研究発表

1) 沖 洋子 (九州産業大・非)
⑨第124回東アジア英語教育研究会 (予定)
日時: 10月20日(土)15:30 ~ 17:30
会場: 西南学院大学1号館205教室
研究発表

1) 清永克己 (飯塚日新館中)
⑩第125回東アジア英語教育研究会 (予定)
日時: 11月17日(土)15:30 ~ 17:30
会場: 西南学院大学1号館205教室
研究発表

1) 金森 強 (松山大)
⑪第126回東アジア英語教育研究会 (予定)
日時: 12月15日(土)15:30 ~ 17:30
会場: 西南学院大学1号館205教室
研究発表

1) 田地野彰 (京都大)

2. 支部総会・支部役員会等の開催

(1) 支部総会 (予定)
日時: 2012年7月7日(土)10:00 ~ 17:00(予定)
会場: 長崎県立大学シーボルト校
議題:

- 1) 2011年度活動報告について
- 2) 2012年度活動計画について

(2) 支部役員会

① 2011年度第10回役員会
日時: 1月21日(土)午後2時~4時
会場: 西南学院大学大会議室
議題:

- 1) 2012年度九州沖縄支部研究大会について
- 2) 2012年度ニューズレターについて
- 3) 第51回国際大会について
- 4) 第50回記念国際大会の総括分割について

② 2011年度第11回役員会
日時: 3月17日(土)午後2時~5時
会場: 西南学院大学大会議室
議題:

- 1) 2012年度九州沖縄支部研究大会について

2) 第50回記念国際大会総括報告書について
3) 2012年度活動計画・人事案について

③ 2012年度第1回役員会
日時: 4月28日(土)午後2時~5時
会場: 西南学院大学大会議室
議題:

- 1) 2012年度九州沖縄支部各種委員の確認について
- 2) 2012年度九州沖縄支部研究大会について
- 3) 2012年度春季学術講演会開催の是非について
- 4) 運営委員会、紀要編集委員会、役員会出席等の交通費見直しについて

④ 2012年度第2回役員会 (予定)
日時: 6月23日(土)午後2時~5時
会場: 西南学院大学大会議室
議題:

- 1) 2012年度九州沖縄支部研究大会について
- 2) その他

(伊藤健一・北九州市立大学)

〈中国・四国支部〉

1. 支部大会、支部研究会等の開催

(1) 支部大会 (予定)
日時: 2012年6月9日(土) 13:00 ~ 17:30
場所: 愛媛大学教育学部
大会テーマ: 「4技能の統合を目指す授業: 大学での実践から得られる示唆」
研究発表

○第1室
1) 「コミュニケーション方略タスク: L2受容語彙を発表技能へと伸展させるための活用」
小西廣司 (松山大)

2) 「英語力と学習意欲の向上に貢献する授業」
岩中貴裕 (香川大)
3) 「より良い英語の発音を目指すための実際的な助言」田淵博文 (就実大)

4) 「ヨーロッパにおけるCEFRの利用の実態について—ドイツの事例を中心に—」
村上泰介 (広島市立大・院)・岩井千秋 (広島市立大)

○第2室
1) 「パブリックドメイン映画を活用したeラーニング教材の開発—eラーニングによる支援は「単位の実質化」につながるのか—」
角山照彦 (広島国際大)

- 2) 「愛媛大学英語教育センターの英語教育改革：単位の実質化に向けた取り組みと発展科目の導入について」折本素（愛媛大）・中山晃（愛媛大）
- 3) 「高校生の異文化理解と社会的比較との関係について」藤居真路（広島大・院）
- 4) 「『日本文化』は英語でどう表現できるか？— 翻訳の理論と方略をめぐる一考察—」堀部秀雄（広島工業大）
- シンポジウム「4技能の統合」
三熊祥文（広島工業大）
中山 晃（愛媛大）
池野 修（愛媛大）

(2) 支部研究会（予定）

日時：2012年10月27日（土）

場所：安田女子大学

2. 支部総会・支部役員会等の開催

(1) 支部総会（予定）

日時：2012年6月9日（土）

場所：愛媛大学教育学部

議題：

- 1) 平成23年度活動報告
- 2) 平成24年度活動予定
- 3) 平成23年度決算
- 4) 平成24年度予算
- 5) 平成24年度人事
- 6) その他

(2) 支部役員会（予定）

①第1回役員会

日時：2012年6月9日（土）

場所：愛媛大学教育学部

議題：

- 1) 平成23年度活動報告
- 2) 平成24年度活動予定
- 3) 平成23年度決算
- 4) 平成24年度予算
- 5) 平成24年度人事
- 6) その他

②第2回役員会

日時：2012年10月27日（土）

場所：安田女子大学

3. その他

(1) 支部紀要の発行

『大学英語教育学会中国・四国支部研究紀要』第9号

発行日：2012年2月28日

(2) 支部ニューズレターの発行（予定）

『大学英語教育学会中国・四国支部研究紀要』第9号

発行日：2012年7月30日

（鳥越秀知・香川高専）

〈関西支部〉

1. 支部大会、支部講演会、研究会等の開催

(1) 支部大会

①支部春季大会（予定）

日時：2012年6月16日（土）11:00～17:00

場所：大阪大学 豊中キャンパス

大会テーマ：「原点に立ち返って考える大学英語教育：未来への新たな一歩 (Back to the Basics of University English Education: First Steps toward a Better Future)」

特別講演：

「原点に立ち返って考える英語教育」

神保尚武（JACET会長、早稲田大）

ワークショップ

「ESP/EAPに向けた大学における文法教育の再考—「意味順」を活用して— (Imijun: A Reconsideration of the Teaching of English Grammar from ESP/EAP Perspectives)」

田地野彰、金丸敏幸（京都大）

「大学英語教員の授業力向上を目指す授業観察シートおよび授業改善のための手引書の考察 (A Study of Peer Review Sheets and Tips for Developing Teaching Skills of University English Teachers)」

村上裕美（関西外国語大短期大学部）、東郷多津（京都ノートルダム女子大）、笹井悦子（桃山学院大）

実践報告

1) 「映画『いまを生きる』のノベライズ原書を用いたリーディング授業 (A Reading Class Using the Novelization of the Movie, Dead Poets Society)」藤岡千伊奈（流通科学大）

研究発表

1) 「自己表現活動における協同学習の有効性—英

語を苦手とする学生を対象として— (The Validity of Cooperative Learning in Speech Training for Low Proficiency University Students)」牧野眞貴 (近畿大)

2) 「日本の大学と英語圏の大学を結びつける英語教育：海外ESLプログラム研究 (English Language Education between Japanese and English-Speaking Universities: Research on Overseas ESL Programs)」

飯田 毅、佐伯林規江 (同志社女子大)

3) 「学習者の動機づけを高める教材開発研究 (Materials Development for Motivating EFL learners)」

幸重美津子 (京都外国語大京都外国語専門学校)、仲川浩世 (関西外国語大短期大学部)

4) 「異なる母語 (英語、日本語、中国語) 話者による比喩的表現の解釈 (Figurative/metaphorical Interpretations Performed by Different Native-language Groups (English, Japanese and Chinese))」

東眞須美 (神戸芸術工科大名誉教授)

5) 「EGPライティングからESPライティングへ (ESP Writing: Moving Forward from EGP Writing)」仁科恭徳 (明治学院大)

②支部秋季大会 (予定)

日時：2012年11月24日 (土)

場所：京都産業大学

(2) 支部講演会

①2011年度 第3回講演会

日時：2012年3月3日 (土) 15:30～17:00

場所：関西学院大学 大阪梅田キャンパス

題目：「大学生のリスニングストラテジー使用と習熟度の関係について」リスニング研究会、「日本人学習者のリスニングとスピーキングにおける英語のリズム」樽井 武 (電気通信大)

②2012年度 第1回講演会 (予定)

日時：2012年7月28日 (土) 15:30～17:00

場所：同志社大学 今出川キャンパス

題目：「英語教育に役立つコーパス研究—日本人英語学習者の前置詞使用の分析—

鎌倉義士 (愛知大)

③2012年度 第2回講演会 (予定)

日時：2012年10月6日 (土) 15:30～17:00

場所：神戸国際会館

2. 支部総会・支部役員会等の開催

(1)支部総会 (予定)

日時：2012年11月24日 (土)

場所：京都産業大学

議題：未定

(2)支部役員会

①第1回役員会 (予定)

日時：2012年7月28日 (土)

場所：同志社大学 今出川キャンパス

議題：未定

②第2回役員会 (予定)

日時：2012年10月6日 (土)

場所：神戸国際会館

議題：未定

3. その他

(1)支部紀要の発行

『JACET Kansai Journal (JACET関西紀要)』14号

発行日：2012年3月31日

(2)支部ニューズレターの発行

①『JACET 関西支部ニューズレター』60号

発行日：2012年5月10日

②『JACET 関西支部ニューズレター』61号

発行日：2012年5月26日

③『JACET 関西支部ニューズレター』62号 (予定)

発行日：2012年8月4日

(金丸敏幸・京都大)

〈中部支部〉

1. 支部大会、支部講演会、研究会等の開催

(1) 英語教育フォーラム

日時：2012年6月2日 (土) 14:20～18:15

場所：名城大学 名駅サテライト

特別講演

「脳機能からみた外国語としての英語習得」

萩原裕子 (首都大学東京)

ワークショップ

「英語で行なう Liberal Arts」

司会・討論 大森裕實 (愛知県立大)

I. "Cultural Diversity in the U.S.: Regions, Ethnicity and Music" YOSHIDA, Kayoko (Hokusei Gakuen University Junior College)

II. "Globalising Japanese History: The Significance of Teaching in English in Japanese Universities" ROBINSON, Eleanor (Aichi Prefectural University)

III. "Using Shakespeare to Raise the Language Awareness of EFL Students" KODAMA, Keita (Nanzan Kokusai Senior High School)

(2) 2月定例研究会

日時：2012年2月18日(土) 14:00～17:30

場所：中京大学 名古屋キャンパス

講演

"Four New Paradigms to Inform Japanese ELT"
James F. D' Angelo (Chukyo Univ.)

研究会研究発表(「国際英語と異文化理解」研究会)

- 1) 「国際言語管理と国際英語論」吉川 寛(中京大)
- 2) 「非母語話者英語への英語学習者の認識と日本人英語について」小宮富子(岡崎女子短期大)

研究発表

「指導場面における『詩的』な談話の構築能力」
片岡邦好(愛知大)

2. 支部総会・支部役員会等の開催

(1) 支部総会

日時：2012年6月2日(土)

場所：名城大学 名駅サテライト

議題：

- 1) 2011(平成23)年度中部支部事業報告
- 2) 2011(平成23)年度中部支部会計収支報告
- 3) 2012(平成24)年度中部支部人事組織
- 4) 2012(平成24)年度中部支部事業計画・予算案

(2) 支部役員会

① 第9回役員会

日時：2012年2月18日(土)

場所：中京大学 名古屋キャンパス

議題：

- 1) 本部報告
- 2) 2012(平成24)年度事業計画修正案及び予算修正案
- 3) 2012(平成24)年度JACET中部支部特別講演会及び支部総会
- 4) 中部支部HPの更新
- 5) 2012(平成24)年度JACET-Chubu News-

letterの編集体制

6) 2012(平成24)年度JACET研究会

② 第10回役員会

日時：2012年3月10日(土)

場所：中京大学 名古屋キャンパス

議題：

- 1) 本部報告
- 2) 2012(平成24)年度JACET中部支部特別講演会及び支部総会
- 3) 2012(平成24)年度JACET中部支部役員会の開催予定
- 4) 2012(平成24)年度JACET-Chubu Newsletter 28及び「中部支部英語教育フォーラム」プログラムの編集と発送予定
- 5) その他

③ 2012年度第1回役員会

日時：2012年4月7日(土)

場所：中京大学 名古屋キャンパス

議題：

- 1) 本部報告
- 2) 2012(平成24)年度JACET中部支部特別講演会及び支部総会
- 3) JACET-Chubu Newsletter No. 28 (2012)
- 4) その他

④ 第2回役員会

日時：2012年5月12日(土)

場所：愛知県立大学

議題：

- 1) 本部報告
- 2) 2011(平成23)年度中部支部事業報告
- 3) 2011(平成23)年度中部支部決算報告
- 4) 2012(平成24)年度JACET中部支部総会・英語教育フォーラム
- 5) JACET-Chubu Newsletter No. 28 (2012)
- 6) 中部支部紀要投稿規程の改正
- 7) 2012(平成24)年度今後の役員会等のスケジュール
- 8) その他

⑤ 第3回役員会

日時：2012年6月2日(土)

場所：名城大学 名駅サテライト

- 1) 本部報告
- 2) 2012(平成24年度)中部支部総会報告事項の確認
- 3) JACET-Chubu Newsletter No. 28 (2012)

- 4) 2012 (平成24) 年度今後の役員会等のスケジュール
5) その他

⑥第4回役員会 (予定)

日時: 2012年7月7日 (土)

場所: 中京大学 名古屋キャンパス

(3) 第51回国際大会実行委員会

①第2回実行委員会

日時: 2012年2月18日 (土)

場所: 中京大学 名古屋キャンパス

議題:

- 1) プログラム案の検討 (継続)
- 2) 実行委員会の組織 (役割分担) (継続)

②第3回実行委員会

日時: 2012年3月10日 (土)

場所: 中京大学 名古屋キャンパス

議題:

- 1) プログラム案の確定 (報告)
- 2) 実行委員会の組織 (役割分担) (継続)
- 3) シンポジウム、基調講演、研究発表等の部屋割 (確認)
- 4) 懇親会の参加費

- 5) 基調講演者、特別講演者等の宿泊先ホテル
- 6) 教育委員会に対する後援依頼

③第4回実行委員会

日時: 2012年4月7日 (土)

場所: 中京大学 名古屋キャンパス

議題:

- 1) 実行委員会の組織 (役割分担) (報告及び追認)
- 2) 基調講演者、特別講演者等の宿泊先ホテル (報告)
- 3) 教育委員会に対する後援依頼 (報告)
- 4) タイムテーブル及び教室割 (案) の確認 (審議)

④第5回実行委員会

日時: 2012年5月12日 (土)

場所: 愛知県立大学

議題:

- 1) 実行委員会の組織 (役割分担) (報告)
- 2) 教育委員会に対する後援依頼 (報告及び承認)
- 3) 名古屋市コンベンションビューローからの申し出 (報告及び承認)
- 4) アテンド業務 (報告)

- 5) タイムテーブル及び教室割 [修正版] の確認 (報告)

- 6) Programme と Proceedings の原稿依頼 (報告)

- 7) 懇親会 (報告及び承認)

- 8) 7月の実行委員会日程

⑤第6回実行委員会

日時: 2012年6月2日 (土)

場所: 名城大学 名駅サテライト

議題:

- 1) 実行委員会の組織 (役割分担) (報告)
- 2) 教育委員会に対する後援依頼について (報告)
- 3) 名古屋観光コンベンションビューローとの打合せ結果 (報告)

- 4) アテンド業務について

- 5) 会場までのアクセス図について (報告)

- 6) 基調講演等に対応する会場設置のPCの確認 (報告)

- 7) 大会 Proceedings の原稿依頼 (報告)

- 8) 懇親会について

⑥第7回実行委員会 (予定)

日時: 2012年7月7日 (土)

場所: 中京大学 名古屋キャンパス

3. その他

支部ニューズレターの発行

『JACET-Chubu Newsletter』 No. 27

発行日: 2012年2月1日

『JACET-Chubu Newsletter』 No. 28

発行日: 2012年5月10日

(下内 充・東海学院大学)

〈関東支部〉

1. 支部大会、支部講演会、研究会等の開催

(1) 支部大会 (予定)

日時: 2012年6月10日 (日) 10:00 ~ 17:20

場所: 横浜国立大学

大会テーマ: 「Globalization and Roles of English」

基調講演:

「Abilities and Aptitudes for Second Language Task Performance」司会: 佐野富士子 (横浜国立大) 講演者: Peter Robinson (青山学院大)

全体シンポジウム

「国際コミュニケーションに求められる英語力」司会: 神保尚武 (早稲田大) 提案者: 高橋恒一 (元駐チェコ共和国大使)、山口 光 (共同通信社企画部室顧問・上智大講師)、寺内一 (高千穂大)

(2) 月例研究会

①第1回月例研究会

日時：2012年5月12日（土）16:00～17:00

場所：青山学院大学総研ビル3階第10会議室

研究発表：「グロービッシュとは」近藤由紀子（一般財団法人グローバル人材開発理事）

②第2回月例研究会（予定）

日時：2012年7月7日（土）15:00～16:00

場所：青山学院大学ガウチャー・メモリアル・ホール（15号館）5F第13会議室

研究発表：「逆転の発想：落ちこぼれ（落ちこぼし）
そんな学習者は指導法の宝庫」高梨庸雄

(3) 講演会（青山学院大学英語教育センター・JACET関東支部共催）

第1回講演会

日時：2012年4月14日（土）15:00～16:30

場所：青山学院大学総研ビル3階第10会議室

題目：「CLILを考える一言語教師の発想を変える
可能性について」笹島 茂（埼玉医科大）

※7月以降にも月例研究会及び講演会は企画されております。詳細は関東支部HP上に掲載されますので、そちらをご覧ください。

2. 支部総会・支部役員会等の開催

(1) 支部総会

第1回支部総会（予定）

日時：2012年6月10日（土）

場所：横浜国立大学

議題：

- 1) 2011年度事業報告
- 2) 2012年度事業計画

(2) 支部役員会

①第1回支部合同会議

日時：2012年4月14日（土）13:00～14:30

場所：青山学院大学総研ビル3F第10会議室

議題：

- 1) ICレコーダーの購入について
- 2) 学会誌予算について
- 3) バスの増発とその決定方法
- 4) 研究会活動について

②第2回支部合同会議

日時：2012年5月12日（土）14:30～15:30

場所：青山学院大学総研ビル3F第10会議室

議題：

- 1) 合同会議の名称変更について
- 2) バスの増発について（支部大会）
- 3) アルバイトへのお弁当の支給について（支部大会）

③2012年度支部運営会議（予定）

第3回7月7日（土）13:30～14:30

（場所：青山学院大学）

第4回10月13日（土）13:30～14:30

（場所：青山学院大学）

第5回11月10日（土）13:30～14:30

（場所：青山学院大学）

第6回12月8日（土）13:30～14:30

（場所：青山学院大学）

3. その他

(1) 支部学会誌の発行

『JACET-KANTO Journal（JACET関東支部学会誌）』8号

発行日：2012年3月31日

（高木亜希子・青山学院大学）

〈東北支部〉

1. 支部大会、支部講演会、研究会等の開催

(1) 支部大会（予定）

日時：2012年7月7日（土）14:00～17:00

場所：エル・ソーラ仙台

大会テーマ：「大学英語授業における自律学習の促進」

シンポジウム：大会テーマに基づき、自律学習研究会との連携で開催

研究発表：未定

2. 支部総会・支部役員会等の開催

(1) 支部総会（予定）

日時：2012年7月7日（土）13:30～14:00

場所：エル・ソーラ仙台

議題：

- 1) 2012年度活動計画・人事案
- 2) 2011年度活動報告・支部会計報告

(2) 支部役員会

①第1回役員会

日時：2012年4月28日（土）12:00～15:00

場所：エル・ソーラ仙台

議題：

1) 支部運営について

②第2回役員会（予定）

日時：2012年7月7日（土）12:00～13:30

場所：エル・ソーラ仙台

議題：

1) 支部運営について

3. その他

(1) 支部紀要の発行

なし（次号の発行予定は2014年3月）

(2) 支部ニュースレターの発行

『JACET東北支部通信』No. 39

発行日：2013年3月発行（予定）

（岡崎久美子・仙台高専・倉内早苗・弘前大学）

〈北海道支部〉

1. 支部大会、支部講演会、研究会等の開催

(1) 支部大会（予定）

大学英語教育学会（JACET）北海道支部2012年度（第26回）大会

日時：2012年7月9日（土）

場所：北海学園大学 豊平キャンパス

(2) 研究会

① 2011年度第3回支部研究会

日時：2012年3月18日（日）14:00～16:00

場所：札幌松崎ビル南1条会議室A

研究発表

1) 「Awareness-Raising in the Teaching of Pragmatics」Jeremie Bouchard（北海学園大）

2) 「発表とミニワークショップ：Readers Theatre を活用した大学英語の授業」浅野享三（南山大短期大学部）

② 2012年度第1回支部研究会（予定）

日時：2012年5月26日（土）

場所：北海道大学 学術交流会館第4会議室

研究発表

1) 「通訳トレーニング——ジャンルからのアプローチ」（仮題）照井雅子（近畿大）

2) 「English Language Teaching in Laos」（仮題）Mark Holst（小樽商科大）

2. 支部総会・支部役員会等の開催

(1) 支部総会（予定）

日時：2012年7月9日（土）

場所：北海学園大学 豊平キャンパス

(2) 支部役員会

① 2011年度第3回役員会

日時：2012年3月18日（土）

場所：札幌松崎ビル南1条会議室A

議題：

1) 平成24年度行事予定について

2) その他

② 2012年度第1回役員会（予定）

日時：2012年5月26日（土）

場所：北海道大学 学術交流センター第4会議室

議題：

1) 支部大会の役割分担

2) メーリングリストの運用

3) その他

3. その他

(1) 支部紀要の発行

『Research Bulletin of English Teaching』9号

発行日：2012年3月14日

(2) 支部ニュースレターの発行

『JACET北海道支部ニュースレター』25号

発行日：2012年3月31日（インターネット上で公開）

（尾田智彦・札幌大学）

『JACET通信』記事の募集

『JACET通信』では、会員の方から随時記事を募集しています。内容は、大学の英語教育に関連していれば、理論的なことから実践的なことまで幅広く受け入れます。字数は、日本語の場合は1500字以上3000字以内、英語の場合は700語以上1200語以内です。参考文献の記載はAPA方式（第6版）を使用してください。原稿は、JACET広報通信委員会宛て（jacetnews@gmail.com）に添付ファイルでご提出ください。なお、記事掲載の採否については原稿受領後約2カ月以内に通知いたします。会員の皆様からの奮ってのご投稿をお待ちしております。

CALL for submissions

The JACET newsletter is seeking contributions (about 700–1200 words) from members for upcoming publications. Papers should focus on EFL teaching issues, methods, practices or successful lesson plans in Japanese post-secondary educational institutions. References should be cited in APA format (the 6th edition). Please send your article as an email attachment to the JACET Newsletter Committee (jacetnews@gmail.com). You will be informed as to the status of your submission within about two months from the time we receive it.

訃報

本学会顧問 五十嵐康男先生（元評議員、理事、顧問・成城大学名誉教授・関東支部）が2012年3月18日逝去されました。享年78歳。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

訃報

本学会名誉会長 梶木隆一先生（元理事、第3代会長）が2012年5月6日逝去されました。享年101歳。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

編集後記

紫陽花の美しい季節になりました。今号が皆様のお手元に届く頃には梅雨明けも近いかと思えます。学生も教員も疲れの出る頃ですが、体調管理に気をつけながら学期の最後まで乗り切りたいものです。

今号では日本独文学会ドイツ語教育部会の三瓶慎一先生にご寄稿をいただきました。心より感謝申し上げます。また、北星学園大学短期大学部の森越京子先生にも、お忙しい中記事をご執筆いただきました。厚く御礼申し上げます。

会員の皆様からの『公募記事コーナー』へのご応募もお待ちしております。

編集委員

理事 尾関直子・明治大学
委員長 大須賀直子・明治大学
副委員長 田口悦男・大東文化大学
遠藤雪枝・清泉女子大学
Robert Hamilton・明治大学
Maggie Lieb・明治大学

2012年7月1日発行

発行者 社団法人 大学英語教育学会（JACET）
代表者 神保 尚武
発行所 〒162-0831 東京都新宿区横寺町55
電話 (03) 3268-9686
FAX (03) 3268-9695
<http://www.jacet.org/>
印刷所 〒252-0021 座間市緑ヶ丘3-46-12
有限会社 タナカ企画
電話 (046) 251-5775